



岡崎市立城北中学校 校長通信

校長室の窓から

～校訓 真面目・精一杯 自主・自律～

4号

令和5年9月14日

城北中学校長
山本 則夫

城北中の新たな伝統「龍神の舞」

「気合い入れていこう！」体育館にリーダーのかけ声が響き渡ります。2年前から始まった3年生による「城北に宿る龍神の舞」の練習に熱が入ります。夏休みからリーダーを中心に練習は始まりました。今年は、隊形移動等、昨年の舞をさらに進化させたものになります。



生徒は毎日汗だくになりながら、練習に取り組んでいます。先日、練習をのぞきに行くと、はじめて最初から最後まで通した場面に出くわしました。踊り終え、「もうだめ～」「ももが痛い」と弱音を吐く生徒、体育館に座りこむ生徒もいました。相当疲れるようです。しかし、そんな生徒の表情は、不思議なことに笑顔であふれています。なぜでしょう？練習に「やらされ感」がないからです。まだまだ完成には遠いですが、お互いの頑張りをたたえ合う雰囲気、苦しい練習を乗り越える活力になっているのです。「自分たちの力で龍神の舞をつくりあげよう」そんな雰囲気が伝わってきました。

3年生の魂の舞は、きっと2年生に引き継がれ、新たな城北中の伝統となっていくでしょう。どうかご期待ください。

さて、昨今の運動会は、安全上の問題からほとんどの学校で組み体操や騎馬戦が姿を消しました。また、練習時間の縮減や熱中症回避を理由に規模を縮小し、午前中開催という学校も多いのが現状です。さらにコロナウイルス感染症が行事の縮小に拍車をかけました。

本校の運動会に目を転じてみると、本年度から、親子綱引きを復活させ、100m走、200m走の決勝も組み込み、全14種目、盛りだくさんの1日開催です。さらにPTAの食品バザーも行い、保護者・地域を巻き込んだ一大イベントです。「時代に逆行しているのでは？」と思われるかもしれませんが、運動会は、子供たちの心身の鍛錬、集団行動の体得、保護者・地域へ学習の成果の発表の場と考えれば、物足りないぐらいです。

運動会が終わった後、心地よい疲れと、この上ない達成感を親子で味わっていただけることを約束します。どうか、子供たちの輝く姿に熱い声援をお願いします。